

[学会] 第941回 千葉医学会例会

第21回 千葉大学医学部放射線医学教室同門会例会

日時:平成8年12月7日(土)午前9時30分~午後5時

場所:千葉大学医学部附属病院3階第1講堂

[口演]

1. MR-angiography of the brain "Neurovascular compression"-like appearance in asymptomatic individuals

本折 健(沼津市立)

【目的】hemifacial spasmやtrigeminal neuralgiaの症状のない被験者でのfifth nerve and seventh-eighth nerve complexにおける血管と神経の関係を検討した。

【対象】無症状の118名(男性62名,女性56名)を検討した。年齢は26から82歳であり,平均年齢は58.3歳であった。

【手段】philips社製Gyrosan-ACS-NT(1.5T)にて実効スライス厚0.4~0.8mmの3D-TOFを撮像し,source imageを検討した。

【結果】fifth nerve rootにおいてはroot entry zone(REZ)における"neurovascular compression"-like appearanceは11.8%に認められた。seventh-eighth nerve complexにおいてはroot exit zone(ReZ)において8.5%に同appearanceを認めた。

【結語】"neurovascular compression"-like appearanceは無症状の者に稀でなく認められる。"neurovascular compression"の読影の際には注意が必要である。

2. Flow-Related Artifacts on Fluid-Attenuated Inversion Recovery (FLAIR) Image
Takuya Ueda, Ken Motoori, Hajime Fujimoto Numazu City Hospital

植田琢也, 藤本 肇(沼津市立)

T2 weighted imageでのparaventricular lesionの描出ではしばしばcerebelospinal fluid(CSF)のhyperintensityが問題となる。Fluid-attenuated inversion recovery(FLAIR)methodを用いることによりCSFのintensityは減弱しlesionが良好に描出されるため現在広く用いられている。しかし

CSF内においてflow related artifactsが出現し病変と区別が難しい場合もある。

今回我々はこのflow related artifactsについて検討し出現場所ごとの頻度とさらにそれらが年齢,性別,疾患等のclinical statusと相関性が認められるかどうかについて検討した。

使用機器はGyrosan-ACS-NT 1.5T: head coilを用いた。TR/TE/TI 5249/150/1800, FOV230 mm, slice thickness 6.0mm, slice gap 0.6mmに設定した。対象は96/11/10より96/11/11までに当院にてMRIを試行した160症とした。結果artifactsは主にfrontal horn of the lateral ventricleに左右それぞれ26.20%, infundibular recessに24%, aqueductに31%, foramen of Luschkaに左右それぞれ21.13%認められた。sizeは3mm~20mmまで平均8.6mmであった。明らかなclinical statusとの相関性は認められなかった。

3. 嚢胞変性を呈した islet cell tumor の1例

吉田克彦, 苅込正人, 日高靖二
此枝紘一(川口市立医療センター)

症例:60才女性:上部消化管造影にて胃体上部大弯側に外部からの圧排が見られた。血液学的には異常はなかったが,単純CTにて膵尾部に直径7cm程の嚢胞性病変が認められた。嚢胞壁の局所的な肥厚と壁の均一な造影効果が見られた。内部はほぼ均一なlow densityであった。MRIではT1強調像でlow, T2強調像でhigh intensityであったが,一部fluid-fluid levelが認められた。血管造影では脾動脈から生じる血管新生が見られたが僅かに造影効果が見られる程度で全体としてはhypovascularであった。

現在islet cell tumorは17例の報告がされており,嚢胞変性の原因は出血や壊死による二次的変化と考えられている。壁の局所的な肥厚があり,血管造影にてhypovascular rimが見られることが鑑別の一助となるとされているが今回我々が経験した症例では通常とは異なる所見を呈していた。